

ボランティア活動報告

仁愛女子短期大学

パソコンボランティアサークル

生活情報専攻 2回生
2014年度サークル長 角屋 晴香

パソコンボランティアサークル（以下、パソボラ）では、毎月第3土曜の午後に鯖江市社会福祉協議会（以下、社協）が主催する「障がい者のためのPC相談会」にスタッフとして参加しています。私はこのボランティア活動を通して、人と接することの大切さ、教えることの難しさを知ることができました。自分の思っていることを伝え、わかってもらえることは大変でした。しかし、毎回楽しく活動することができました。また、障がいを持った方々と接することで、相手の立場を考えて行動することができるようになったと思います。この活動でたくさんのことを学ぶことができ、とても良い経験になりました。この経験を糧に社会に出てからも頑張っていきたいです。

生活情報専攻 2回生
2014年度会計担当 松田 優衣

私は、PCのことは全く分からなかったのですが、社協に行くことでPCの知識が身についたと思います。主にKさんのサポートをさせていただきましたが、Excelの難しい問題も解きました。授業で習ったことを復習でき、また分からないことを学ぶことも出来ました。PCのことだけではなく、障がい者の方への配慮の仕方など考えて行動することができ、様々な経験をする事が出来ました。今後パソボラで学んだことを普段の生活でも活かせるよう努力します。

生活情報専攻 1回生
2015年度サークル長 友寄 未菜

1年間パソボラに所属し障がい者の方と触れ合う機会ができたことで、今までとは違う刺激をたくさん受けまし

た。はじめはどうしていいかわからなくて戸惑った部分もたくさんありましたが、PCを通して障がい者の方と触れ合ううちに自分の知識が人の役に立つ喜びをより感じる事ができました。スキルアップを目指して課題に取り組んでいる様子を見て、自分も見習うべきところがあり、自分を見つめなおす良い機会になりました。

生活情報専攻 1回生
2015年度会計担当 清水 和佳奈

パソボラを通して自分の知識を人に教えることの難しさや楽しさを知ることができました。最初は自分も分からない機能が多くあたふたしましたが、どういう風にしたら上手く伝わるかを考え、徐々に自分から沢山お話もできるようになりました。自分の知識が少しでも役に立っていたら嬉しいなと思います。あまり回数は行きませんが1回1回が濃く、障がい者の方々とコミュニケーションすることができ大変さよりも楽しさの方が大きかったと感じます。この経験を二回生での活動でも活かしていきたいと思います。

ユネスコサークル

生活情報専攻 1回生
松川 葵・宮川 奈緒美

私たちの活動は主に募金活動や献血補助活動があります。それは、仁愛女子大学の教職員、職員、学生、それに地域の方々など、多くの人が集まる大学祭（いわゆる「仁短祭」）の中で行われてきています。

今回、日本赤十字社の都合で献血補助活動は行われなかったため、主に募金活動について述べたいと思います。大学祭当日、午前中は募金箱をクラス模擬店の最前列の机の上に置き「募金活動を行っていますので、ご協力をお願いします。」と大きな声を出して、少しでも募金額

が多くなるように努力しました。しかし、募金はあまり多くなかったため、午後からは人の多いところを集中的に回ることになりました。その甲斐あって、午前よりも募金額も多くなりました。でも、期待していたほどではなかったため、クラスで話し合った結果、売り上げの一部を募金に回すことに決めました。

よくショッピングセンターなどの前で募金活動をしている人達を見かけます。大きな声を出してうさいとすることもありますが、いざ自分が募金活動を行ってみると、その大変さがよく分かります。いくら「お願いしま〜す!」と大きな声で言っても、なかなか集まるものではありません。その大変さが身にしみてよく分かりましたが、よい勉強になりました。



募金活動があまり上手いかなかったのには理由があります。一つは活動時間が短かったことです。もう少し時間をかければ、もっと多くの募金があったのではないかと思います。二つ目はぶっつけ本番で行ったので、多くの人に理解してもらえなかったことです。ユネスコサークルは募金活動もやっているという認識を多くの人に持ってもらうと、もっと協力してもらえたのだらうと思います。三つ目は、私たちが固まって行っていたことです。それぞれが分散して活動を行っていれば、もっと効率的になったかもしれません。

いずれにしても、よい体験、そして勉強になりました。募金活動といえども、企画、立案など大切なことがあると実感した一日でした。

森田地区文化祭

栄養研究サークル

例年仁短祭と同時開催だった森田地区文化祭が、今年には仁短祭の1週間遅れで、会場も昨年までの森田小学校から森田公民館に変更となりました。天気がよく気持ちのよい日での開催となり、公民館前にはフラワーアレンジメントのコーナー、地元野菜の販売、焼きそばなどの販売がある中、栄養研究サークルでは恒例のパウンドケーキの販売をさせていただきました。販売開始は開会式後とのことでしたが、その合図を待たずに買おうと意気込むお客様が一気に集まり、公民館の職員の方から待つように注意されるほどでした。販売開始となると一本売りのパウンドケーキは瞬く間に売り切れてしまいました。小学生が購入しやすいようにカット売りを多く用意しましたが、一本売りが売り切れたためにカット売りをまとめ買いするお客様が増え、こちらも30分で完売しました。来年はもっとサークルのメンバーを募り、栄養研究サークルならではの工夫を凝らしたおいしいパウンドケーキを多く提供できるようにしていきたいと思います。



もりた夢市

栄養研究サークル

栄養研究サークルでは、サークル活動として手作りパウンドケーキを「もりた夢市」で販売させていただいています。今年は11月9日に森田小学校の体育館で開催され、恒例となったパウンドケーキには開店前からお客様が並んでいました。パウンドケーキには、プレーン、ココアマーブルのほかに、福井県産さつまいもやほうれん草を使ったパウンドケーキも販売しました。放課後や土曜日を利用して、安全でおいしいパウンドケーキ作りに取り組んできました。お客様の期待に応えられるようたくさん用意したいのですが、どうしても限界があり、毎年のごとく20分で完売してしまいました。森田地区の方々はとても優しく、「また来年買いに来るね」「楽しみにしているよ」と声をかけてくださり、とても励みになりました。来年もまたサークル活動として「もりた夢市」に参加させていただき、楽しく盛り上げていきたいと思えます。

とコミュニケーションを図ることができ、とても良い経験になりました。このボランティアを通して、たくさん子どもたちと関わることができ、ボランティア活動をしてよかったと思いました。また、ボランティアすることは、こんなに楽しいんだと気づくことができました。これからは色々なボランティア活動に参加したいです。



子育て応援団「すこやかふくい2014」

幼児教育学科 2回生
竹本 真結

私は「すこやかふくい2014」にて、インフォメーションでの活動をしました。インフォメーションでの主な仕事は、会場アナウンス、ピラ配り、来場者の人数を数えるなどがあり、私は会場アナウンスをしました。メインステージでのイベントの呼びかけ、迷子のアナウンス、車の移動放送など、普段できないような活動を経験しました。

会場の方々に伝わるよう明るい声でハキハキと聞き取りやすいよう心がけ、取り組むことが大切だと学びました。また、迷子や車の移動の案内は、いつ訪れるかわからないので、練習なしでアナウンスしなければならない場面もありましたが、周りにいたスタッフの方やボランティアの方の優しい言葉がけのおかげで、焦らず臨機応変に活動することができました。初めて会ったスタッフの方々

オレンジリボン運動

ボランティアサークル+幼児教育学科有志



平成26年11月16日に、オレンジリボン運動月間に合わせて開催された啓発活動（福井市子ども福祉課と共同開催）に参加しました。事前には、保育園の園長先生や行政の方に児童虐待について実際のお話をうかがって、

勉強会を行いました。それを踏まえて、児童虐待の実態やオレンジリボン運動について知ってもらうため、自分たちの思いなどを模造紙にまとめて当日掲示しました。その他、街頭で児童相談についての広告が入ったティッシュを配ったり、イベントで親子に資料・手作りのオレンジリボンの配布をしたりしました。

今回の活動を通して、初めてこの「オレンジリボン運動」というものを知りました。将来保育者として働いていくことを志しているのです、事前の勉強会で保育所での実態など知ることができ、とても貴重な機会となりました。この活動を通して学んだことを、就職してからも役立てていきたいです。また、この活動を通して子ども達だけでなく、子育て中の親御さん、福井市の方などたくさんの人と関わることができ、とても良い経験になりました。活動中の子ども達の笑顔を見て、幸せそうにしている親御さんの姿が印象的でした。この運動をたくさんの方に知ってもらいたいので、これからも積極的に広めていきたいと思いました。



ボランティアサークル

幼児教育学科 2回生

山本 瑞季

ボランティアサークルでは、定期的に図書館でも活動をするとともに、様々なイベントに参加し、子どもを対象としたレクリエーションや絵本の読み聞かせなどを行っています。

図書館での活動としては、絵本の読み聞かせや、制作活動、親子でできる触れ合い遊びなどを実施しています。主な参加者は、子どもは未就園児から小学生まで幅広く、休日に実施することで家族そろって参加していただくことも多いです。そのため、絵本を1つ用意することでも、皆が理解し楽しめるようにするには、と悩むことも少なくありません。制作やレクリエーションをするときには、子どもがやりたい、楽しいと思えるように工夫し、また難しいと思えるところについては保護者の方にも一緒に協力してもらいます。そのような関わりを通して、私たち学生のみでなく、みんなでコミュニケーションをとりながら活動を進めていくことができます。

今年はオレンジリボン（児童虐待防止）を呼びかける活動にも参加をしました。各活動後には反省会も行い、新しく授業で学んだことも取り入れながら、次の活動がより良くなるように努力をしています。実際に子どもや保護者と関わりあえることもあり、将来につながる貴重な経験となっています。



折り紙研究会

幼児教育学科 2回生
塚谷 奈実



折り紙研究会では、定期的に福井大学医学部附属病院小児科の入院病棟プレイルームに飾る壁紙作りをしています。また、図書館や公民館などでの折り紙教室も行いました。

あわら図書館でのボランティアでは、クリスマスが近かったということで、小学生を対象にツリーとその飾りを作りました。一人ひとりがしっかりと練習をし、子どもに教えられるようにしました。

実際にやってみて、練習したかいもあって、上手く教えることができました。しかし、難しい折り方もあって、教えることがうまくできなかったものもありました。自分自身が折り方を覚えるだけでなく、どのようにして教えるかを考え、準備や練習を十分にして臨む大切さを学びました。しっかりと教えられるか不安もありましたが、子ども達もとても喜んで作っていたので、嬉しく思いました。

私達の企画で子ども達が楽しんで作って満足した様子が見られたので、ボランティアに参加してとてもいい経験になりました。

おもちゃサークル

幼児教育学科 2回生
嶋田 有咲

おもちゃサークルの活動として、上志比児童館でパラバルーンを使った遊びを行いました。普段あまり関わることのない小学生との交流だったため、活動内容を考える際に、簡単すぎても難しすぎても楽しめないと思い、どのように進めていけばよいのかとても悩みました。

パラバルーンを初めて使うという子どもが多く、不安を抱えながら活動を始めましたが、いざ行ってみると、仲間とのふれあいの中から、とても楽しそうな表情を見せてくれる子どもばかりで、私自身も楽しみながら活動を行うことができました。しかし、何度注意してもふざけてしまう子どももいて、小学生に対する注意の仕方がわからなく、どのような対応や声かけをすれば良いのかわかりませんでした。それでも、最後にはそのような子どもたちからも楽しかったという声が聞けたので、ボランティア活動ができてよかったと思いました。

このボランティア活動を通して、年齢に合った遊びを考え、子どもたちみんなが楽しめるような声かけをする大変さを学びました。それとともに、環境構成や準備をよく考えておくことがとても大切だとわかりました。子どもに遊びの楽しさを伝えるということは難しいことですが、その分やりがいもあると思うので、この経験をこれからの保育へと活かしていきたいです。

